

政策評価書（要旨） （事前の事業評価）

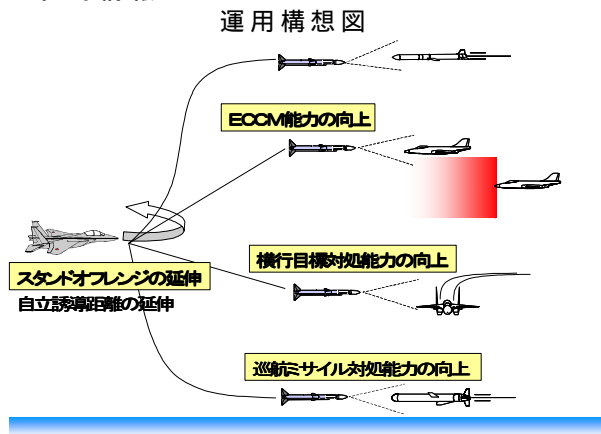
事業名	99式空対空誘導弾（改）	担当部局	管理局開発計画課
政策分野	防衛装備の適正な維持・管理(研究開発)	実施時期	平成13年6月～8月

事業の内容 現有の99式空対空誘導弾（中射程空対空誘導弾）の有効性を長期的に確保するため、射撃効率や残存性を向上させた99式空対空誘導弾（改）を開発する。	<table border="1"> <tr> <td>14</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>完了年度</td> </tr> <tr> <td colspan="2">← 試作(その1) →</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">19年度 経費総額 約55億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>← 試作(その2) →</td> <td colspan="2">← 試作(その3) →</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>← 技術試験 →</td> <td>実用試験</td> <td></td> </tr> </table>						14	15	16	17	18	19	完了年度	← 試作(その1) →						19年度 経費総額 約55億円		← 試作(その2) →	← 試作(その3) →								← 技術試験 →	実用試験	
	14	15	16	17	18	19	完了年度																										
← 試作(その1) →						19年度 経費総額 約55億円																											
	← 試作(その2) →	← 試作(その3) →																															
				← 技術試験 →	実用試験																												
所要経費 約9億円（後年度負担額を含む。）																																	

評価の内容	
事業の目的 諸外国の中射程空対空誘導弾は段階的な能力向上計画を推進しており、航空自衛隊で装備している中射程空対空誘導弾（99式空対空誘導弾）は攻撃範囲、母機残存性、耐妨害性等の機能・性能が今後相対的に低下することが予想される。したがって現有99式空対空誘導弾の機能・性能を向上させ、諸外国の類似機種に対して有効に対処可能な99式空対空誘導弾（改）を開発し、航空優勢の獲得に寄与することを目的とする。	事業実施の効果・時期 本事業による比較的小規模な改修により、将来見込まれる性能の陳腐化（攻撃範囲、母機残存性、耐妨害性等）を防止し、将来にわたって99式空対空誘導弾の有効性を確保することができる。なお、ライフサイクルコスト抑制のため、量産単価の低減を図っており、経費の節減にも寄与できる。 平成19年度開発完了予定
事業の必要性・適正性 近年の諸外国の類似機種は段階的な能力向上計画を推進中であり、2010年代においては、現有99式空対空誘導弾は、諸外国の類似機種に対して優位性を維持することが困難になると見込まれる。一方、限られた防衛力で長期にわたって防衛を遂行するためには、侵攻側よりも高い残存性及び大きな攻撃範囲を有することが重要である。したがって、2010年代において、航空優勢を獲得するためには、残存性、攻撃範囲、耐妨害性等の機能・性能を向上させた99式空対空誘導弾（改）が必要である。 さらに、99式空対空誘導弾（改）は、民生部品の多用、現有品との共通化、部品点数の削減等により、量産単価の低減を実現する。	

今後の対応 見通し得る将来にわたって99式空対空誘導弾の有効性を確保できると評価できることから、14年度概算要求を実施する。	その他の参考情報 参考情報、別図：各国装備品との比較表 ライフサイクルコスト：装備品の開発から用途廃止までにかかる総経費
-------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------

参考情報



計画線表

14	15	16	17	18	19	完了年度
← 試作(その1) →						19年度
	← 試作(その2) →					経費総額
		← 試作(その3) →			実用試験	約55億円
			← 技術試験 →			

注 自立誘導距離：ミサイルが自ら目標を捉え、誘導飛しようすることが可能なミサイル・目標間の距離。  
 スタンド・オフ・レンジ：ミサイルを発射した戦闘機が離脱可能なときの戦闘機・目標間の距離。この値が大きいほど戦闘機の残存性が高まる。

各国装備品との比較表

名 称		99式空対空誘導弾 (AAM-4)	99式空対空 誘導弾(改)	AIM-120B	AIM-120B+	AA-12	AA-12PD
開発国		日本	日本	米国	米国	ロシア	ロシア
母機残存性	スタンドオフレンジ	1.0	1.2	0.9-	1.2-	0.7	1.1
	自立誘導距離	1.0	1.4	1.0	1.0	0.8	1.0
攻撃範囲	側方目標対処能力	中	大	中	中	中	—
耐妨害性	電子戦能力	中	大	中	—	—	—
運用開始時期		2002年	2011年	1994年	2004年以降	1994年	2009年以降
注) 日本の現有装備品を1.0又は中としたときの比較表							
出典) Military Technology, Jane's Missile & Rockets, Jane's Defense Weekly, Aviation Week等							